

日本一の医療システムを持つ沖縄は、世界一の医療が実現されている地域という事です。



藤田 次郎 × 竹中 知華

ふじた じろう

たけなか ともか

琉球大学医学部附属病院 病院長
1956年、香川県生まれ。81年に岡山大学医学部を卒業後、虎の門病院、国立がんセンター中央病院でのレジデントを経てネブラスカ医科大学に留学。香川医科大学講師(2001年)、琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座教授(05年)、同研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座教授(10年)を経て現職。

フリーアナウンサー
1982年、広島県生まれ。青森朝日放送(2005～06年)、岩手朝日テレビ(06～07年)キャスターを経て08年からNHK沖縄放送局でニュース番組キャスターやリポーターとして活躍。15年からはフリーアナウンサーとして、テレビやラジオ、結婚式などの各種イベントの司会などで活躍。

オーディションに受かったのがきっかけで沖縄に来ることになり、7年間NHKでお世話になりました。現在は民放のテレビ・ラジオ出演やイベントなどで司会の活動をしています。藤田病院長はどのような経緯で来沖されたのですか。

藤田 私は香川県の高松市出身で、岡山大学の医学部を卒業しました。11年前に琉球大学医学部附属病院第一内科の教授のお話をいただいたいて、それで沖縄に来ることになったわけです。自分では沖縄という土地に呼び寄せられ、そして縁があつて今は病院長という職にあると思っています。

竹中 昨年4月に病院長に就任されたそうですが、感想はいかがですか。

藤田 就任してまだ10カ月ですが、私の仕事は1600人の職員を元気にすることだと考えています。職員が元気になると患者さんも元気になりますし、それがどんどん広がると最終的には沖縄全体が元気になると考えています。

竹中 壮大なスケールですね。

藤田 私は病院を“お城だ”と考えていて、この病院を“琉球城”と呼んでいます。いろいろ調べてみたのですが、実際に30年以上前にこの病院を設計した田村麗丘さんも、設計のコンセプトを「現代の首里城」としてい

たそうです。とても偶然とは思えないですよね(笑)。

竹中 何か不思議な感じですね。

国家プロジェクトとしての西普天間地区への移転計画

竹中 琉球大学医学部とその附属病院は宜野湾市の米軍キャンプ瑞慶覧・西普天間住宅地区跡地に移転が決まっていますね。

藤田 移転に関しては、私が病院長に立候補した時の公約でもあります。米軍基地の跡地である西普天間地区をどう活用するのがいいの自分なりに考えた時、平和の象徴としての病院がふさわしいのではないかと考えるに至ったわけです。

竹中 そうだったんですね。新病院は「国際医療拠点」としての機能を充実させるとお聞きしていますか。

藤田 はい。とはいえ「国際医療拠点になります」と言ったからといって、明日すぐにそうなるわけではありません。時間をかけて人材を育成し、優秀な医師を集めるなどの準備が必要です。まずは現在の病院を良いものにし、そして移転してはじめて国際医療拠点と謳えるわけです。沖縄はかつてアジア諸国と広く交流していましたし、その後の薩摩支配や琉球処分、壊滅的な被害

今回は、昨年4月に琉球大学医学部附属病院の13代病院長に就任した藤田次郎氏が、元NHKキャスターの竹中知華さんと沖縄の医療や琉大病院の移転問題についてお話しします。
藤田病院長のスケールの大きな話に、竹中さんは圧倒されたようです。

を受けた先の大戦の歴史もあります。その沖縄に平和のシンボルである国際医療拠点を持ってきて「世界中の人たちを受け入れますよ」ということです。

竹中 災害時はどうでしょう。

藤田 おっしゃるように災害時の拠点病院としての機能も求められています。現在地もそうですが、移転予定地も高台に立地しています。地震や津波などの自然災害時に標高の低いところにある病院が機能しなくなっても、ここでは一定程度の患者さんの受け入れが可能です。そのためには自衛隊の所有する大型の輸送ヘリコプターが離着陸できるようなヘリポートが不可欠で、それができてはじめて高度救命救急センターとして機能するわけです。あの地区は敷地も広いですし、海軍病院も隣接しています。西海岸の湾岸道路が開通したら那覇空港まで約20分で行くこともできます。

もちろん現在の場所も申し分ないのですが、この病院がさらに飛躍するためには西普天間地区への移転がいいだろうと思っています。今回の移転は先日の安倍首相の施政方針演説の中にも明記されていますが、1000億円規模の国家プロジェクトになります。先ほどの話とつながりますが、そこに新しい“琉球城”を作るのが私の天命なのかなと思っています。竹中 藤田病院長は感染症のご専門だと聞いていますが、その点でも貢献はできるのでしょうか。

藤田 沖縄の感染症はとても特徴があるんですよ。かつて沖縄は気候や貧困の影響でマラリアや Dengue 熱、それに寄生虫がとても多かった。ですから戦後、沖縄にやって来

た米軍はまず感染症対策を徹底的に行いました。そうでないと自分たちが感染してしまうという危機感があつたわけですね。そしてアメリカの全面的なバックアップがあつて現在の県立中部病院が設立され、沖縄は感染症診療において日本一の地域となったわけです。一方、世界を見てみるとまだまだ感染症に悩む地域がたくさんありますから、将来的には琉大附属病院が国際医療拠点として東南アジアを中心に感染症の分野で貢献できるようにしたいと思っています。

竹中 沖縄は特に東南アジアとの交流が活発ですから、有効かもしれませんね。

藤田 そうですね。逆に言えば、沖縄は外部からいろんな感染症が入って来やすい環境にあります。最近では沖縄と歴史的に深い関わりを持つ南米でジカ熱の流行が問題になっていますが、今年の10月に開催される「世界のウチナーンチュ大会」には南米からも多くの県系人が来沖されるでしょうから、今からその対策をすることが必要になってきます。

日本でもトップクラスを誇る沖縄の医療システム

竹中 琉大附属病院とへき地医療の関わりについて教えてください。

藤田 医療は社会のインフラです。したがって県内隅々まで行き渡らせることが大切で、宮古、八重山、名護の3カ所に設置されている県立病院を充実させなければいけないと私は考えています。私が第一内科教授の頃は内科医をこの3カ所に毎年10人ほど派遣していたのですが、現在は沖縄県地

域医療支援センターという県の機関があり、この3カ所に赴任してもいいという学生を含めて毎年17人の地域枠を設けて推薦入試を実施しています。運営は私たちの病院に委託されていますので、責任者である私が先頭に立って人事を行っています。時間を掛けながら、地域の拠点となる“お城”を充実させていきたいですね。

竹中 沖縄の医療の未来はどうあるべきだと考えますか。

藤田 私は沖縄の医療は日本一だと確信しているんですよ。なぜかという、119番で救急車を呼び出すと、一回で搬送先の病院が決まります。本土でそういうことはまずあり得ません。沖縄の基幹病院はほとんどが24時間の診療体制を組んでいて、たとえ満床でも救急患者の受け入れを断らずに廊下に簡易ベッドを設置して対応している病院もあります。そういう意味で沖縄は最高の医療システムを作り上げたとは私は思っています。

竹中 日本は医療保険制度でも世界有数ですよ。

藤田 そうです。アメリカだと医療保険に加入していても盲腸の手術で200万円ほどかかりますが、日本はせいぜい5万円程度で済みます。そういう意味で日本の医療制度は世界一ですし、日本一の医療システムを持つ沖縄は世界一の医療が実現されている地域ということになります。

竹中 本日はありがとうございます。今後のさらなる活躍を期待しております。

藤田 こちらこそ楽しかったです。機会があったら、学会などの司会をお願いしますよ。



理事長



高良 健

大道中央病院
那覇市安里1-1-37 TEL.098-869-0005(代)
美容形成部門 TEL.098-869-0066
リハビリテーション部門 TEL.098-869-0050

メディカルプラザ大道中央
那覇市宇大道123 TEL.098-886-0007(代)
一般内科部門 TEL.098-869-0711
循環器部門 TEL.098-886-0072
糖尿病部門 TEL.098-886-0115
人工透析部門 TEL.098-886-5151
検診部門 TEL.098-886-0078

小規模多機能型ホーム大道
那覇市大道94-3 TEL.098-885-0018

地域交流センター大道
那覇市大道94-3 TEL.098-885-0056

グループホーム大道が丘
那覇市大道94-3 TEL.098-885-0036

(提携)メディカルエステ大道
那覇市安里3-1-3 TEL.869-0018

(提携)福祉用具貸与・販売事業所
那覇市安里128 TEL.098-885-0100

(提携)ヒルズガーデンクリニック
那覇市松川120-1 TEL.098-885-0333

(提携)ヒルズガーデン那覇
那覇市松川120-1 TEL.098-885-0300

介護老人保健施設 やすらぎの里
那覇市安里3-1-57 TEL.098-869-0030

在宅総合ケアセンター陽心会
那覇市安里381-1 TEL.098-885-0030

大道老人訪問看護ステーション
那覇市大道128 TEL.098-885-2885

グループホームたかまーみの家
那覇市安里3-1-47 TEL.941-0080

(提携)那覇市地域相談センター末吉
那覇市首里末吉4-6-1大明ビル1F TEL.098-885-0178

末吉老人福祉センター
那覇市首里末吉2-14 TEL.098-886-3510

(提携)有料老人ホーム健寿の杜
那覇市安里3-1-47 TEL.098-941-0070

デイサービスセンター安里
那覇市安里388-5 TEL.098-886-0328

デイサービスセンター三原
那覇市三原1-31-20 TEL.098-840-0051

辻町若狭クリニック
那覇市若狭3-5-17 TEL.098-869-0012

(提携)小規模多機能型ホーム若狭
那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0550

(提携)地域交流センター若狭
那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0552

(提携)グループホーム若狭の家
那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0551

壺川老人福祉センター
那覇市壺川2-3-11 TEL.098-853-1139

ケアハウス常夏の島
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036

小規模多機能型ホーム牧志
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0025

地域交流センター牧志
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0025

小規模多機能型ホーム三原
那覇市三原2-7 TEL.098-840-0027

地域交流センター三原
那覇市三原2-7 TEL.098-840-0027

(提携)小規模多機能型ホーム辻
那覇市辻1-6 TEL.098-951-0070

(提携)地域交流センター辻
那覇市辻1-6 TEL.098-951-0070

(提携)有料老人ホーム松風邸
那覇市辻2-10-4 TEL.098-869-8557

那覇市地域相談センター若狭
那覇市若狭3-5-17 TEL.098-863-1165

辻老人憩の家
那覇市辻2-14-1 TEL.864-0580